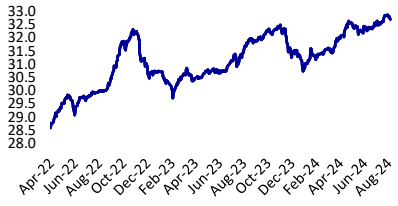
Mizuho Weekly Market Report

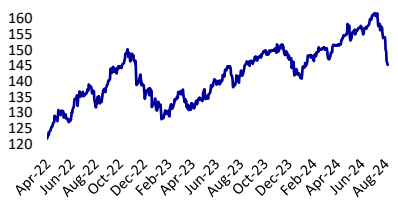
2024/8/5
みずほ銀行東アジア資金部台北室

市場動向

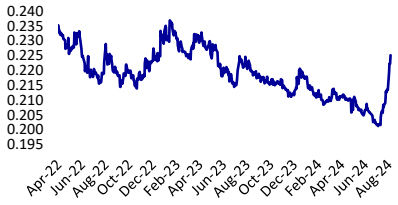
■USD/TWD



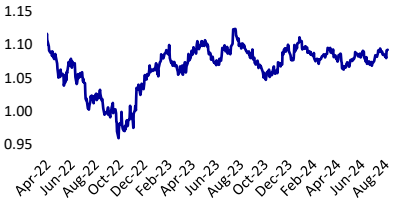
■USD/JPY



■JPY/TWD

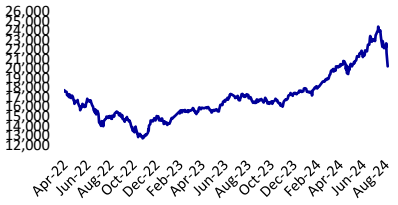


■EUR/USD

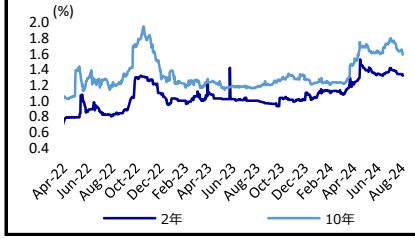


■USD/CNH

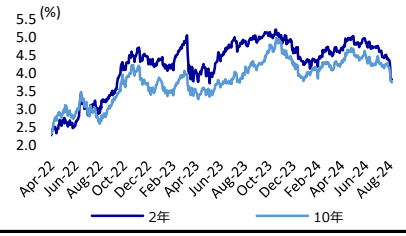
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは変わらず。週初7/29は32.790でオープン後、台湾株の下落が継続する中、リスクセンチメントが悪化し、台湾ドル売りが優勢な展開となり32.80台後半まで上昇。7/30は、輸出業者による月末の外貨売りが見られ、ドル売りが優勢な展開となり32.80台前半まで下落。7/31は、海外時間にFOMCを控える中、米金利の低下が一服したことを受けてドル買いが優勢な展開となり、一時32.930まで上昇。その後、円が急速に買われていたことを背景にアジア通貨買いが進み、32.80台半ばまで下落した。8/1は、前日海外時間のFOMCにおいて、早ければ9月会合で利下げを議論とのスタンスが示されていたことを受けてドル売りが優勢な展開となり一時32.660まで下落。しかしその後、台湾の一部上場企業から配当金支払いが実施される中、ドルが買い戻され32.70台後半まで上昇。8/2は、台湾株が急落する中、外国人投資家による台湾株売りがまとまって見られ、32.80台後半まで上昇。最終的には前週比概ね変わらずの32.817で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,169.4億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は下落。週初7/29は153.87でオープン後、週初の材料に欠ける状況下、ドル円も方向感に乏しく154円を挟み揉み合いの推移。7/30は、週央にFOMCを控え米金利の低下が一服したことを受けてドル買いが進み、一時155.22まで上昇。海外時間に日系報道機関より「日銀、追加利上げを検討」との報道がなされると、急速に円買いが進み152円台後半まで下落。7/31は、日銀金融政策決定会合において長期国債買入額の減額と、政策金利引き上げが発表されたことで円買いが急速に進み、150円近辺まで下落。海外時間に入ると、FOMCにおいてパウエル議長より「早ければ9月のFOMCで利下げを議論する可能性がある」とのスタンスが示され、ドル売りが加速。149円台後半まで下落した。8/1は、海外時間に発表された米経済指標が軟調なものとなったことで、米経済腰折れ懸念が台頭。ドル売り圧力が強まり149円台後半で上値重く推移。8/2は、海外時間に発表された米7月雇用統計が市場予想を下回り米金利の低下が加速。ドル売りも加速し、一時146.42まで下落した。最終的には前週比4.8%ドル安円高の146.49で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD　予想レンジ：32.550-32.850

今週は揉み合いの推移を見込む。米金利の低下はドル売り圧力となるものの、グローバルな半導体株の下落によるリスクセンチメントの悪化が続く場合、台湾ドル売り圧力も残存しやすく、売り買い交錯となるであろう。

■USD/JPY　予想レンジ：143.00-146.00

今週は上値の重い推移を見込む。日米金融政策の方向感が逆転し、日米金利差の縮小が急速に進む場合、円買いが進みやすいであろう。

今週の予定

8/5 (MON)	米7月ISMサービス業景況感指数
8/6 (TUE)	台湾7月CPI
8/7 (WED)	
8/8 (THU)	台湾7月貿易収支
8/9 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようにお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。